

ほんめ 本目さよ

発行：台東区議会議員
本目さよ
上野桜木2-1-9-6A



区政報告レポート ほんめの“眼”～HOMME'S EYE～

タイトル 保育料1年間の軽減措置が決まる!

vol.
15

2014年第4回定例会報告 第4回定例会トピックス

衆議院議員選挙予算の専決処分(区長が議会にはからずに決めること)含む議案33件を可決、さらに全議員で提案し、0から議員提案条例をつくりあげました。これは台東区議会初めてとも言われています。

また、保健福祉委員会では手話言語法の制定を求める意見書を出すことを提案、国に対して意見書を提出しました。

今定例会では、次世代育成支援地域行動計画の進捗状況や、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画の中間のまとめをはじめとして、障害福祉計画、住宅マスタープラン、長期総合計画、行政計画など、来年度からの台東区のあり方についての中間のまとめが提示されました。パブリックコメントなども多く実施されていますので、ぜひ、ご意見を行政に対して示してください。

1 初の?! 議員提案条例が制定

台東区としては初めて(とされています)、ゼロから文案をつくり、全議員で提出した「男女平等推進基本条例」を制定しました。

女性議員6名からはじまり、全議員に賛同していただいたの快挙。議会の役割はチェック機能の他に、条例をつくるという仕事もあります。今まではあまり取り組んでいなかったものですが、社会の変革などと同時に議会も少しずつ変わってきています。

中身のポイントは3点

- ・女性の活躍に重点をおいたものではなく、男性も女性も共に生きやすい社会を目指すことに重点をおいたもの。
- ・幼児や高齢者であっても、きちんと「男女」に含むとしたもの
- ・性自認(自分の認識している自分の性別)や性的指向(いずれの性別の人を好きになるか)をも包含した、いわゆる性的マイノリティも含んだこと

私達、地方議員には国会議員と違って政策担当秘書などもないため、非常に苦労が多い条例づくりとなりましたが、様々な人の協力を得て成立させることができました。

2 小規模保育施設について

一般質問において、教育長に対して我が会派たいとうフロンティアからは、「本区は地価が高く、事業者が認可基準を満たす場所を確保することが難しい。家賃補助など区独自の上乗せ補助を実施してはどうか?」と提案しました。

他区では、上乗せ補助を実施する動きがあるとも聞いており、他区が実施して台東区がやらなければ、事業者が台東区で保育所を開こうとしなくなるためです。

教育長は「上乗せ補助については、国が示す保育に通常要する費用の額を踏まえ、慎重な検討が必要である」と回答しました。

例えば国の公定価格では、家賃分は12名規模で月額5万4千円であるとされています。台東区内で5万円では子ども12人もの安全なスペースを取ることはできませんよね。

引き続き、区に対して訴えていきます!

3 保育料の増額の経過措置が決まりました!

各保育園や幼稚園で説明会を実施した後、あまりに増加分が大きいご家庭もあるため、経過措置として1年間は、本来の半分のみ増額とするとの報告がありました。保育料は子どもへの投資、未来への投資として、なるべく低額にして欲しいところではありますが、保育を必要とする子どもの増加や、これから台東区でかかる老朽化対策などの費用、また保護者負担分は、本来保育にかかっている費用の約10%程度ということから、了承をしました。

4 2025年問題に対する対策を!

保健福祉委員会では高齢者や介護に関する来年から3年間の計画の中間のまとめが提示されました。

子どもの計画である次世代地域行動計画では、育児をする親の視点が多く含まれているのに、介護に関しては「介護する側」の視点が欠けていることを指摘。

また、2025年に団塊の世代が75歳以上になった時、団塊ジュニアと呼ばれるその子どもたちが介護に携わる可能性が高くなります。そのときに、社会全体として介護を支える仕組みづくりや、企業で働いている場合のワークライフバランスなどをきちんと今から促進しておかなければ、介護による離職や休職などで、介護する側も収入を失い、雇っている企業側も働き盛りの40～50代の戦力を失ってしまうため、今から対策が必要であると伝えました。